



早いもので、2022年もあとわずかとなりました。今年もコロナの影響を受けた年でした。来年こそは、みんなが安心して楽しく過ごせる年になってほしいと願うばかりです。

4月からこれまで、コロナ対策をしっかりしながら、いろいろな行事や園外保育、活動を行ってきました。子ども達は、友達や保護者の方と楽しんだり、体験を遊びに取り入れたり、自分の力を存分に発揮したり、試行錯誤や工夫をしたり……。様々な経験をして、たくさんの学びをして、心も体も大きくなったと思います。保護者の皆様には、あたたかいご理解とご協力をいただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。三学期もよろしくお願いいたします。良いお年を！！

12月と言えば・・・子ども達の夢とワクワク感

12月と言えば・・・子どもなら「クリスマス！！」と答えることでしょう。平田幼稚園の子ども達も生活発表会が終わった頃から、「12月ってサンタさんが来るんだよね」「そうそう、プレゼント持ってくるよね」と、クリスマスやサンタクロースの話題で賑わいました。そこで、平田幼稚園恒例の『サンタさんへのお手紙ポスト』を職員室へ設置しました。そして、「このお手紙ポストにサンタさんへの手紙を入れると、園長先生がサンタさんにお届けするからね」と各クラスの子ども達に伝えると、さっそく絵や言葉を書いた手紙を次々にポストに入れにやってきました。

年少児は、クラスで手作りされたツリーに思い思いの飾りを飾って楽しんでいます。ハサミやセロテープの使い方も随分上手になり、手先もだんだん器用になってきました。年長・年中児が手紙をポストに入れに行くのを見て、自分達も絵を描いてポストに入れに来るようになりました。サンタさんが来てくれるのを楽しみにしています。

年中児は、サンタさんや自分の顔を書いた可愛い絵と、先生に「サンタさん、プレゼントをください」などと自分の思いを書いてもらった手紙を入れています。入れる前にポストをのぞき込んだり、入れた後に「ポトン」と音がしたのを聞いて安心した顔になったり……。きっと、サンタさんに届くというポストを不思議に思ったり、ちゃんと手紙がサンタさんに届くといいなと思ったりしているのでしょう。また、「サンタさんにもプレゼント、あげるんだ」と、自分達で作ったマツボックリの飾りを袋に入れたものを見せてくれました。プレゼントをもらうだけではなく、サンタさんにも何かしてあげたいという、優しさのお返しの心がとても素敵ですね。

年長児は、サンタさんやトナカイ、ハートなどの素敵な絵と、自分で書いた言葉の手紙を大事そうに持ってきてポストに入れています。その手紙には「サンタさん、ようちえんにきてね」「おもちゃがほしいです」「サンタさん、だいすき」など、サンタさんに伝えたい言葉をひらがなで一生懸命書いたものです。ひらがなが読めるけどまだ書けない子は、先生にお手本を書いてもらったり、「この字は〇ちゃんの名前にある！」と友達の名札を見て書いたりして、一生懸命その字をまねて書いてきます。このように『サンタさんへ手紙が書きたい！』という強い思いや必要感があると、字への興味が高まり、あっという間に覚えていくと思います。そして、年長児は手紙をポストに入れた後、ポストに向かって手を合わせお祈りをする子がたくさんいます。本当にサンタさんへの夢を膨らませ、楽しみに心躍らせているんだなということが伝わってきて、心が温かくなります。

幼いころに膨らませた夢や希望は、成長していく過程でのいろいろな力となっていきます。いつかサンタさんの真実を知る日がくるでしょうが、夢や希望をたくさん抱えて育った子は、「ちょっと大人になることよ」（CMにありましたね）と、豊かな心と素敵な笑顔でつぶやくんだろうなあと思います。その日まで、子ども達の夢や希望を大切にしていきたいと思います。



「ちゃんとお手紙、ポストにはいったかなあ？」年少児



「みんなでサンタさんにお手紙書いたよ」年中児



「サンタさん、どうか幼稚園にきてください！」お祈りする年長児

21日(水)のお楽しみ会には、子ども達が待ちに待ったサンタクロースがやってきました。大喜びの子ども達のテンションはマックス!クラスごとに「サンタさんはどこから来たの?」「どうしてソリは空を飛べるの?」など質問をした後、お楽しみ品のプレゼントを一人一人サンタさんからもらい笑顔一杯でした。

サンタさんが帰った後、年長児がまたお手紙ポストにやってきました。今度は「サンタさん、幼稚園にきてくれてうれしかったよ」「プレゼント、ありがとう」というお礼の手紙でした。子ども達の気持ちに、ほっこりしました。



「だめでもいいよ。行ってみる」

この言葉は、生活発表会当日の朝、年長児が言っていた言葉です。これまでセリフの自主練習で職員室へきていました。当日の朝も自主練習をするため、私のところへ行こうとする子ども達に担任が「もうすぐ本番が始まるよ。園長先生も忙しいと思うよ。」と言ったそうです。そうしたら、「だめだったら帰ってくるよ。でも、もしかしら聞いてくれるかもしれないから行ってみる。」と言ったそうです。そして、私のところへやってきて「聞いてください」と言いました。さすがにもうすぐ始まるし、どうしようかと考えましたが、子ども達の最後の自信となればと思い、3人の自主練習を聞きました。本番は、どの子も堂々と伸び伸びとした発表がとても素敵でした。

また、サンタさんへのお手紙ポストへのお手紙を入れることを喜んでいた子ども達。最初のうちは自由に職員室のポストに入れにきていましたが、一日を通して切れ間なく子ども達が訪れるので、「〇時から△時まで」とその日に入れに来て良い時間を放送していました。19日のこと、いつものように朝、ポストに入れる時間を放送しました。が、その日は雪がうっすら積もっていて、どのクラスも園庭で雪遊びを楽しんだり、クラス活動をしたりして、ポストに入れる時間が過ぎました。私は“今日はもう来ないのかな・・・”と思っていたら、年長児の男児が「先生、お手紙ポストの時間は、次は何時ですか?」と聞きにきました。「あっ、そうだよね。みんな一生懸命クラスで活動していてこれなかったんだね。時間は過ぎたけど、お手紙出したいよね。」と言うと、「うん」とうなづき、嬉しそうに保育室へ帰っていきました。さっそく「今から1時までポストが開いています」という放送をしました。すると、次々にサンタさんへのお手紙や折り紙を入れにやってきました。

この二つの出来事から、『ダメもと』という言葉を書き浮かべました。「ダメでもともと、という気持ちで、とりあえずやってみる(やってみる)」ことですが、これは結構勇気がいることではないかと思えます。「ダメもとで、気楽に」という使い方をよくしますが、「失敗するかもしれない」「断られるかもしれない」それでも一回やってみようという気持ちがないとできないことです。誰しも、できれば失敗したくはないし、断られたくないものです。「ダメもと」と言いつつも、心のどこかでは期待してしまうものです。それでも自分の願いのために一歩踏み出すのは、大人に言われたことだけをしてはできません。自分の心で感じ、自分の頭で考えて行動することが必要です。『トライ&エラー』挑戦し、小さな失敗を繰り返しながら自分で考えてまた挑戦し、乗り越えていく力。これはこれからの人生でとても大切なことではないでしょうか。そうした意欲や態度が少しずつみられてきている子ども達、私たち大人もしっかりとその姿を支え、寄り添っていきたいものです。

平田図書館から読み聞かせに来ていただきました

15日(木)に、平田図書館読み聞かせを行っていただきました。この日も子ども達は、「今日はどんな絵本かな?」と心待ちにし、絵本の世界を楽しんでいました。

【読み聞かせをしていただいた絵本】

- | | | |
|------|------------------|-----------------------------|
| ○年少児 | ・『ゴリラさんは』 | 北村裕花/作、講談社/刊 |
| | 『ゆきゆきゆき』 | たむらしげる/作、福音館書店/刊 |
| | 『クリスマスのふしぎなほこ』 | 長谷川摂子/文、斉藤俊行/絵、福音館書店/刊 |
| | 『だれのほね?』 | たけうちひろ/文・切り絵、出版ワークス/刊 |
| ○年中児 | ・『まどから★おくりもの』 | 五味太郎/作・絵、偕成社/刊 |
| | 『ふゆのあさ』 | 村上康成/作、ひかりのくに/刊 |
| | 『ふゆめがっしょうだん』 | 富成忠夫、茂木透/写真、長信太/文、福音館書店/刊 |
| ○年長児 | ・『メリークリスマスおつきさま』 | アンドレ・ダーハン/作、きたやまようこ/訳、講談社/刊 |
| | 『フランソンのさむい冬の日』 | セシリア・ヘイッキラ/作、菱木晃子/訳、化学同人/刊 |
| | 『おでんのゆ』 | 真珠まりこ/作・絵、ひさかたチャイルド/刊 |